

2024年度 東京成徳大学卒業後アンケートの集計結果の概要（大学全体）

I 調査の概要

- (1) 目的 本学のアセスメント・ポリシーに基づき、本学の教育の質の向上をめざすPDCAの一環として、今後の在学生の教育や支援などに役立てるため、卒業後の進学や就職の状況、在学中に受けた教育内容やサービスなどの振り返り、本学で学んだことが現在の仕事等に活かされているかなどを把握する卒業後アンケート調査を実施する。
- (2) 対象者 卒業後2年目（2022年度卒業）の卒業生の内から300人（学科別の詳細は下表参照）
- (3) 方法 卒業生・保証人住所（当時）へのWebアンケート回答用アドレスの郵送による
- (4) 期間 2024年7月29日（月）～2024年8月26日（月）
- (5) 回収状況 ()内は2023年度調査の数値

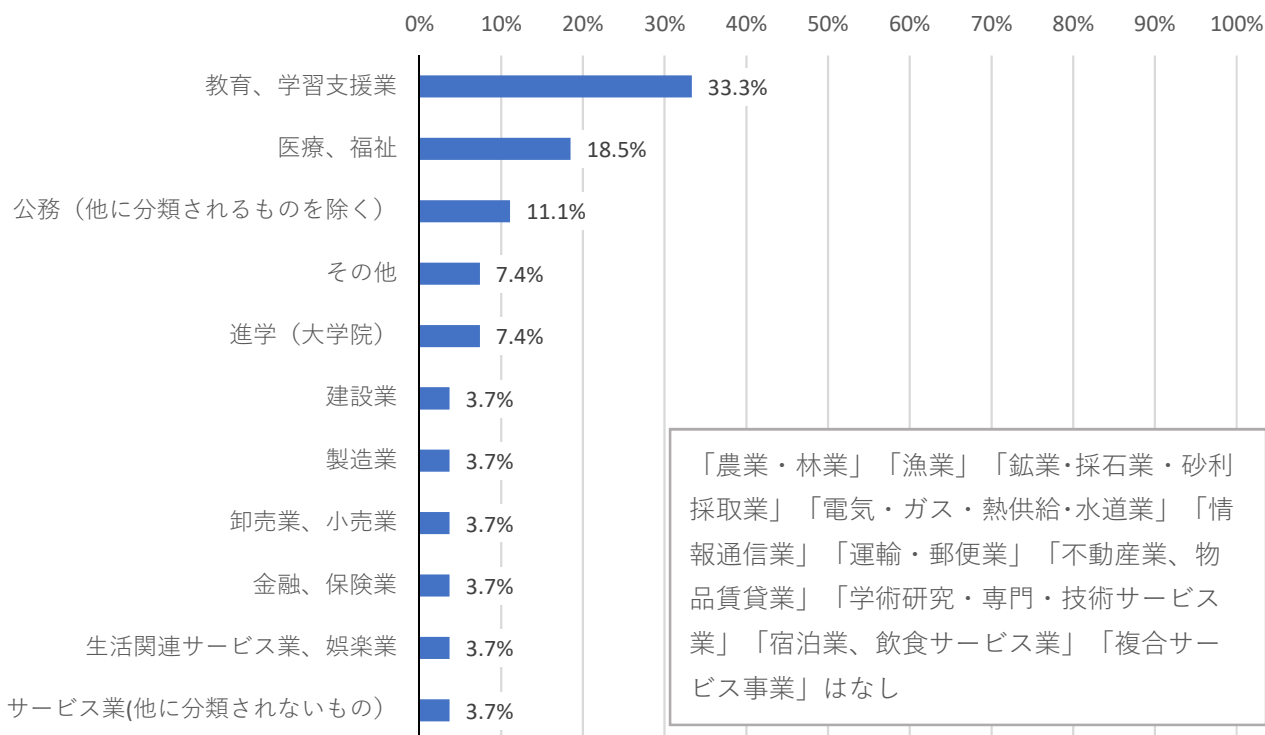
	回答数		対象者数		回答率（宛先不明調整後）		
全 体	27	(37)	300	(300)	9%	(9.3%)	(12.7%)
国際学科	0	-	25	-	0%	(0%)	-
日本伝統文化学科	-	(3)	-	(20)	-	-	(15.8%)
国際言語文化学科	-	(2)	-	(30)	-	-	(6.7%)
臨床心理学科	4	(3)	67	(66)	5.9%	(6%)	(4.5%)
健康・スポーツ心理学科	3	(4)	28	(29)	10.70%	(11.5%)	(14.8%)
子ども学科	17	(22)	90	(87)	18.80%	(19.7%)	(26.2%)
経営学科	3	(3)	90	(68)	3.30%	(3.4%)	(4.5%)

1)宛先不明による返送は計11件（国際：1、臨床：1、健スポ：2、子ども：4、経営：3）

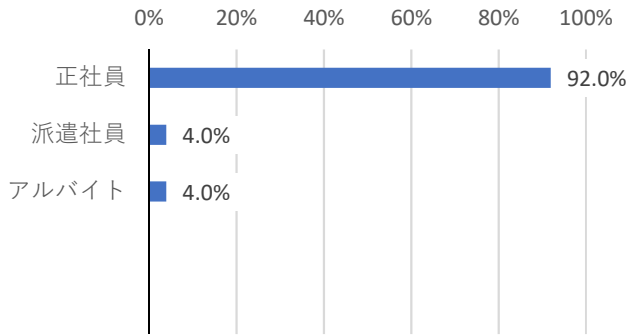
2)学科別の卒業者数と送付者数の詳細は末尾の表参照。

II 勤務先及び勤務状況について

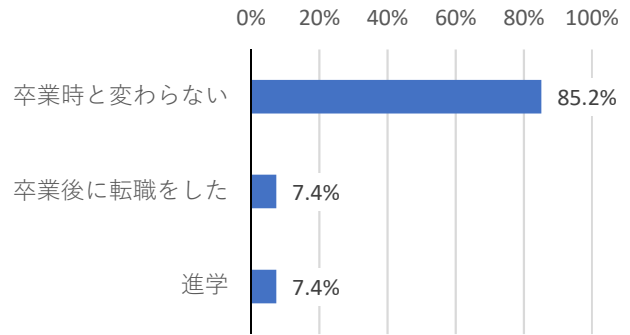
3. 勤務先の主たる業種について（n=27）



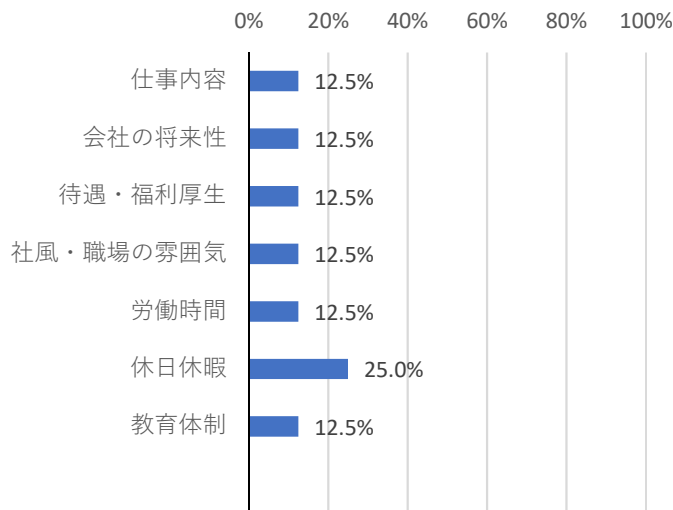
4. 勤務先での雇用形態について (n=25)



5. 現在の勤務先について (n=27)



6. 転職で重視した項目 (n=2の複数回答計)

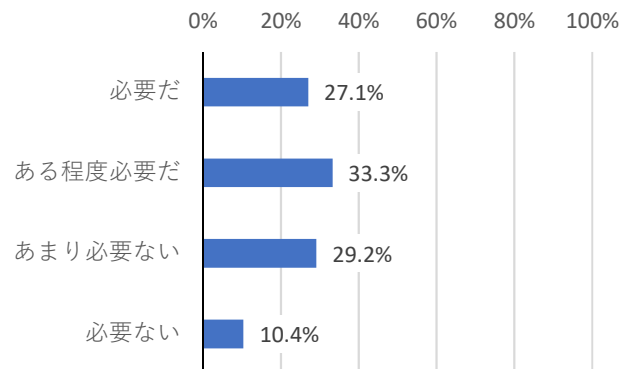
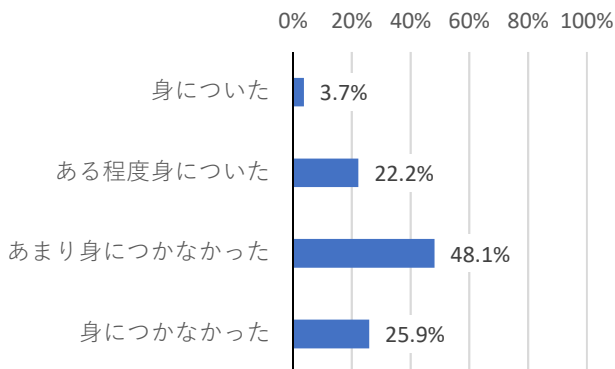


III 大学での学びを通して、下記の能力や資質などはどの程度身につきましたか。また、それは実社会での仕事や社会的活動などにどの程度役立っていますか。当てはまる数字を () に記入してください。

(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

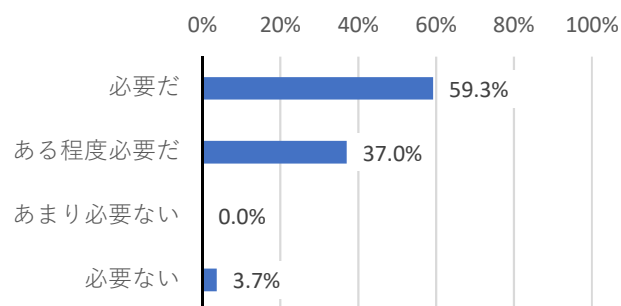
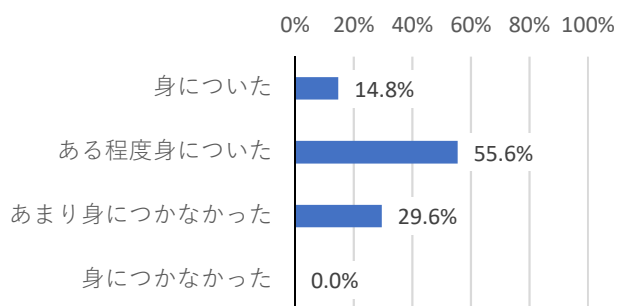
(1) 外国語能力(n=27)



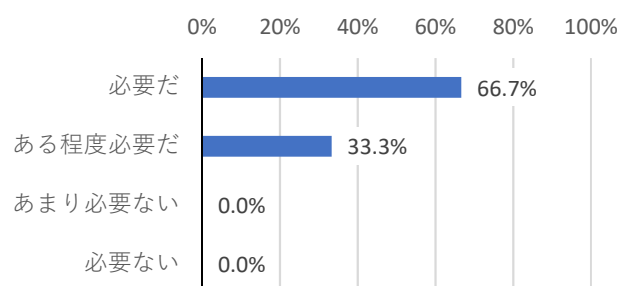
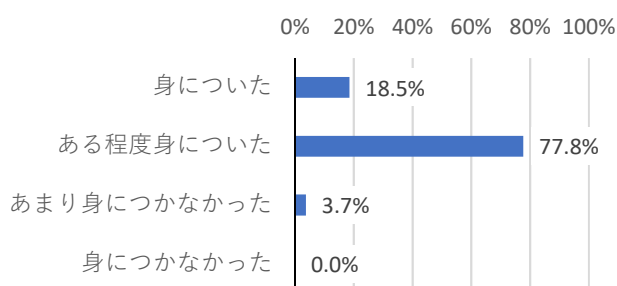
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

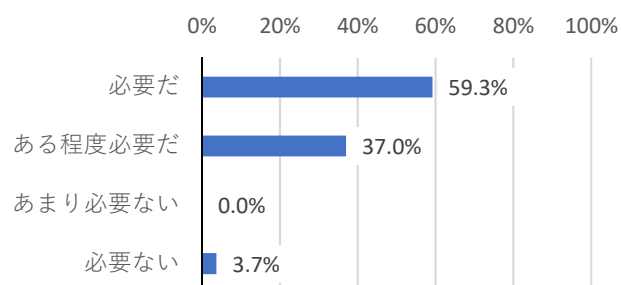
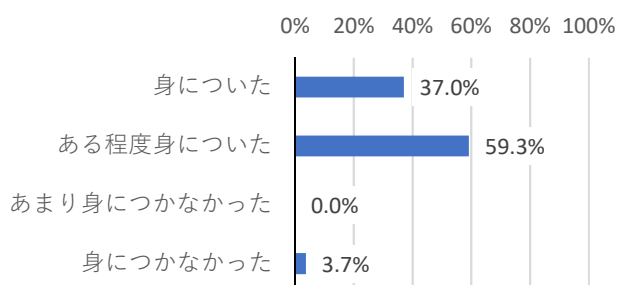
(2) ICTリテラシー (n=27)



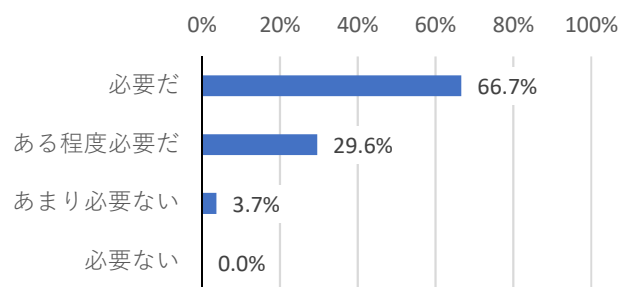
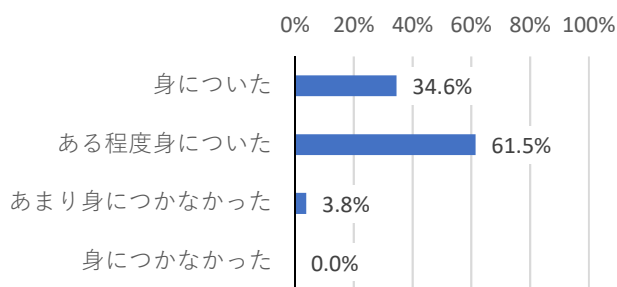
(3) 幅広い知識と教養・一般常識 (n=27)



(4) レポートや論文を書く力 (n=27)



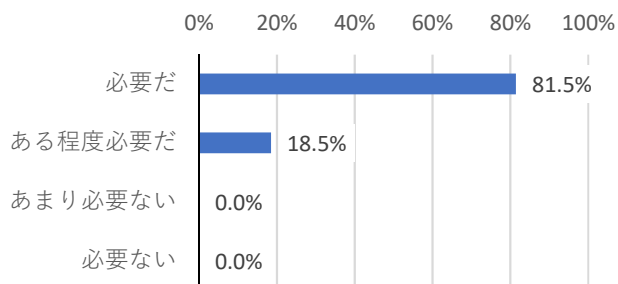
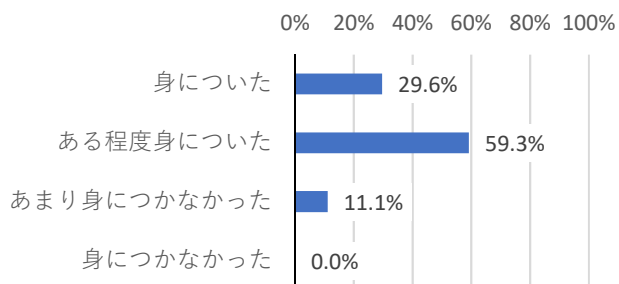
(5) 専門的な知識やスキル (大学でn=26、社会でn=27)



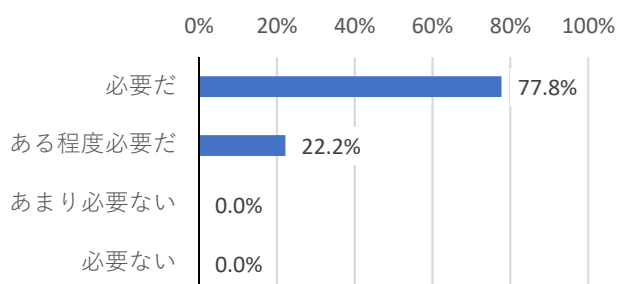
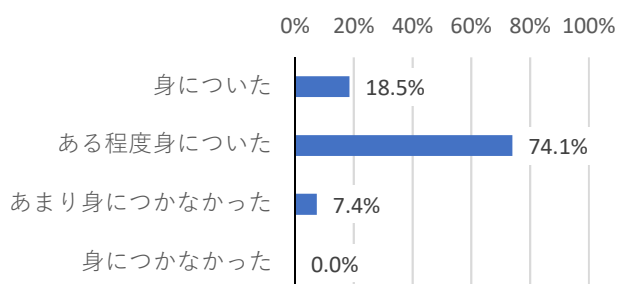
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

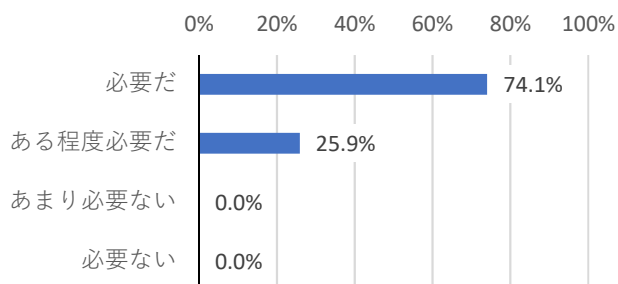
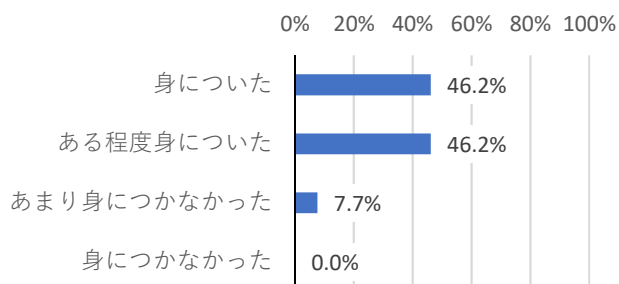
(6) 自主性・主体性 (n=27)



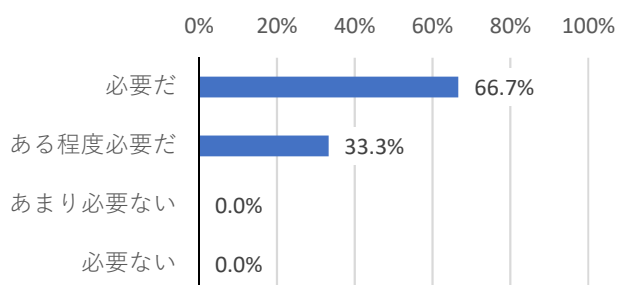
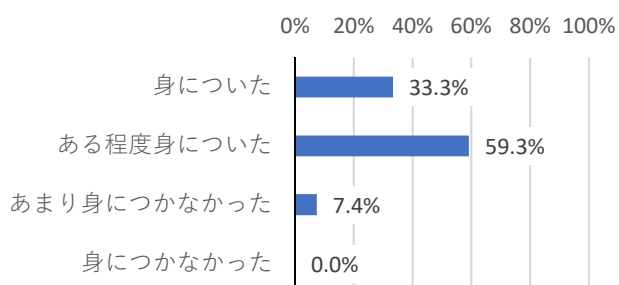
(7) 課題発見と解決能力 (n=27)



(8) 協働性 (一緒に取り組む力) (大学でn=26、社会でn=27)



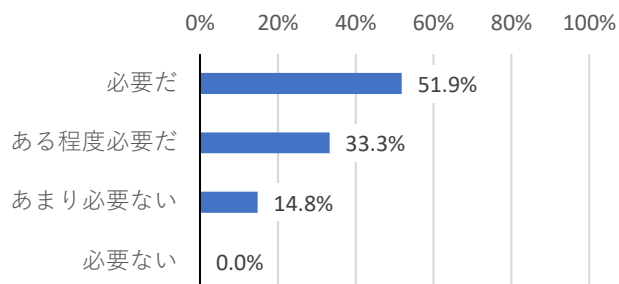
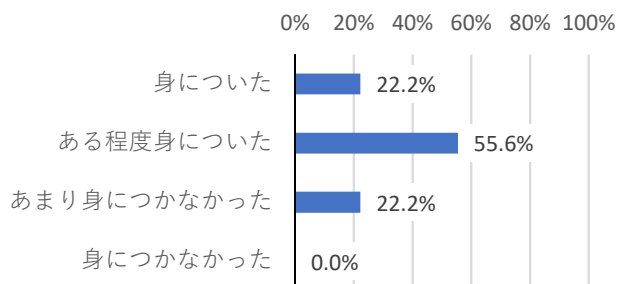
(9) 自分自身のものの見方・考え方 (n=27)



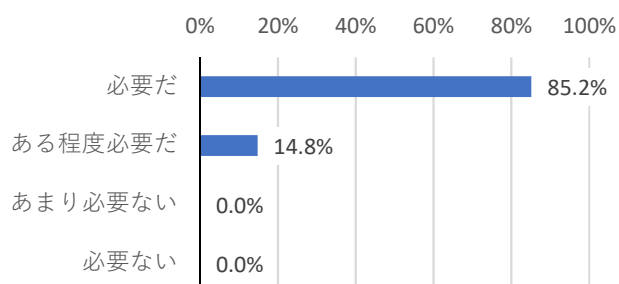
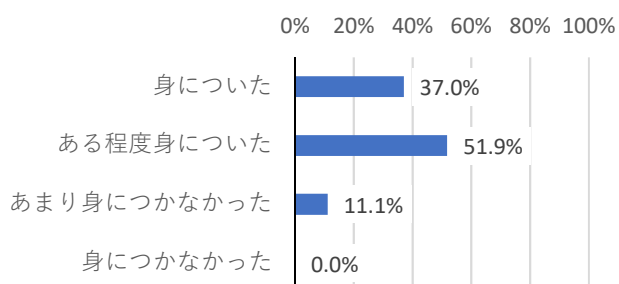
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

(10) プレゼンテーション力 (n=27)



(11) コミュニケーション能力 (n=27)



(参考資料：学科別・年度別の送付者数)

(人)

	2022年度卒業	
	送付数	卒業生数
国際学科	25	41
臨床心理学科	67	107
健康・スポーツ心理学科	28	45
子ども学科	90	143
経営学科	90	145
計	300	481

自由記述

臨床心理学科	外国語
健康・スポーツ心理学	1番はコロナ禍で2年次、3年次と対面の授業ができなくそこが後悔ではある。授業で言えば映画にもっと取り組んでおくべきだったと思った。
子ども学科	保育職に務めさせていただいています。多国籍の子どもたちの入園が多く、子どもはもちろん、保護者とも上手く意思疎通が出来ず、コミュニケーションが取れないことがややあります。もっと多国籍の方への伝え方や関わり方を学生時代に学べていたらと思います。
	子ども学科でエプロンシアターやスケッチブックシアター、パネルシアターを作ることがなく、現在保育士になり作っておけばよかったと強く思いました。
	社会人としての振る舞い方(態度や言葉遣い)。 昨年、実習に来た成徳の学生の態度が良いものではなかったです。
	怪我の対応と特別支援の知識
	どんなに小さいものでもよいのでビジネスの経験をしてみたかったです。
	私自身が経験して良かったと思っていることが、実習の際に先生方から学ぶ姿勢の大切さを教えて頂いたことです。 社会人6年目になって後輩指導をするようになってから、挨拶や誠意を見せる取り組み、報連相の大切さなどを改めて感じ大学時代に身につけておいたことで自身の評価にも繋がっていると感じています。
	また、指導をする際に基本的な学ぶ姿勢が出来ていないと教える側にとって前向きに教えよう！という気持ちになれず、ここで損している人が多いように感じるため後輩にも身につけておいて欲しいと思います。
	小学校で働きましたが、実情をもっと伝えて欲しかった。実践力をもっと着けたかった。
	保育での子どもとの関わり方だけでなく、保育者の仕事について、技術的なことも学びたかった。 例えば、製作のアイデアや作り方、年齢やハンデがある子どもについて考えたり、可愛いものから本物に近いものなど、幅広いものが作れるようになっておきたかった。特に毎月の壁面や、行事（特に劇などの発表会）で使う小道具や壁面の作り方、効率的な作り方など知りたかった。 あとは、運動会や発表会での出し物についてももっと考えたり、アイデアをだしあったり、どんなものがあるのかなど学びたかった。 今後の保育者になる後輩たちには、アイデアが沢山生まれるよう、できることが増えて行ってほしいです。 また、社会での常識についても学びたかった。

2024年度 東京成徳大学卒業後アンケート結果の主要Facts (大学全体)

1. 就職先企業の属性

- (1) 業種 「教育・学修支援」「医療・福祉」が上位2業種：計51.9%
(2023年度)「教育・学修支援」「医療・福祉」が上位2業種：計59.4%
- (2) 勤務形態 「正社員」 92% (2023年度：91.7%、2021年度：85.4%)
- (3) 現在の勤務状況 「卒業時と同じ」 85.2% (2023年度：83.3%、2021年度：83.3%)
「卒業後に転職」 7.4% (2023年度：8.3%、2021年度：10.4%)
- (4) 転職理由 「仕事内容」「会社の将来性」「待遇・福利厚生」「社風・職場の雰囲気」「労働時間」「教育体制」が各1人「休日休暇」が2人(総計2名中)
(2023年度)「年収」「仕事内容」「社風・職場の雰囲気」「労働時間」「その他」が各1人(総計5名中)

2. 「大学の学びを通して下記の能力、資質がどの程度身についたか」と「社会に出て感じるそれらの資質や能力を大学時代に身につけておくことの必要度」について

(上位2位、下位2位)

(不足度:-0.8以上)

学修内容（「学修調査」をベースとする）	①大学の学びでどの程度身についたか		②実社会の仕事、社会的活動でどの程度必要性を感じるか		①-② (修得度不足)		2024年度-2023年度			
	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	修得度増減	必要度増減		
1. 外国語能力	2.0	1.8	3.1	2.7	-1.1	-0.9	0.2	0.4		
2. ICT リテラシー	2.9	2.5	3.5	3.6	-0.6	-1.1	0.4	-0.1		
3. 教養・基礎的スキル	幅広い知識と教養・一般常識		3.1	2.9	3.7	3.7	-0.6	-0.8	0.2	0.0
	レポートや論文を書く力		3.3	3	3.5	3.2	-0.2	-0.2	0.3	0.3
4. 専門知識・スキル	3.3	3.2	3.6	3.5	-0.3	-0.3	0.1	0.1		
5. 社会人基礎力	自主性・主体性		3.2	2.8	3.8	3.6	-0.6	-0.8	0.4	0.2
	協働性		3.4	3.1	3.7	3.8	-0.3	-0.7	0.3	-0.1
6. 総合力	課題発見と解決能力		3.1	2.8	3.8	3.6	-0.7	-0.8	0.3	0.2
	自分自身のものの見方・考え方		3.3	3.1	3.7	3.6	-0.4	-0.5	0.2	0.1
	プレゼンテーション能力		3.0	2.5	3.4	3.4	-0.4	-0.9	0.5	0.0
	コミュニケーション能力		3.3	3.0	3.9	3.8	-0.6	-0.8	0.3	0.1

(注) ①、②は、「身についた=4、ある程度身についた=3、あまり身につかなかった=2、身につかなかった=1」および「必要である=4、ある程度必要である=3、あまり必要でない=2、必要でない=1」とする加重平均値。

(1) 修得度が高い項目（上位2位）

「協働性」

「協働性」「自分自身のものの見方・考え方」「コミュニケーション能力」

(2023年度)

「専門知識・スキル」

「協働性」

「自分自身のものの見方・考え方」

(2) 必要度が高い項目（上位2位）

「コミュニケーション能力」

「自主性・主体性」「課題発見と解決能力」

(2023年度)

「協働性」

「コミュニケーション能力」

「専門知識・スキル」「自主性・主体性」「課題発見と解決能力」

(3) 修得度不足が大きい項目（上位2位）

「外国語能力」

「課題発見と解決能力」

(2023年度)

「ICTリテラシー」

「外国語能力」「プレゼンテーション能力」

(参考)

